



## ごあいさつ

### はじめに

平素よりフコク生命をお引立ていただきまして、誠にありがとうございます。

このたび、2018年度決算にもとづく業績や「お客さま基点」の実践に向けた取組みなどをご説明した「フコク生命の現状2019」を発刊いたしました。本誌を通じて、フコク生命に対するご理解を一層深めていただければ幸いです。

### 2018年度を振り返って

2018年度の日本経済は、年度前半は緩やかに回復したものの、年度後半は回復の動きに足踏みがみられました。金融資本市場につきましては、当初、総じて円安、株高傾向で推移した後、10月以降は世界経済の先行き懸念の高まりを背景に株価が急落するなど不安定な動きとなりましたが、年度末にかけては次第に落ち着きを取り戻しました。一方、生命保険業界を取り巻く環境は、少子高齢化に伴う人口減少や、AI・フィンテックといったテクノロジーの進歩等により変化しており、こうした変化への対応力がより一層求められています。

こうした環境の中、保険販売面においては10月に主力商品「未来のとびら」に付加する新たな特約として「あんしんケアダブル」〔介護終身年金特約<認知症加算型> (2018)〕、そして企業・団体向け医療保険「メディカルHOPE」(新団体医療保険)を発売するなど、多様化するお客さま

のニーズにお応えできるよう努めております。

決算の状況につきましては、基礎利益はフコクしんらい生命との合算で912億円と6年連続で900億円台を確保いたしました。また、健全性を示す指標である連結ソルベンシー・マージン比率は1,236.4%と引き続き高い水準を維持しております。

生命保険は、ご契約者が保険団体を構成して互いに助け合う「相互扶助の精神」で成り立っており、皆さまからお預かりした保険料は万一のことがあったお客さまに保険金等としてお支払いされております。2018年度においては、フコクしんらい生命との合算で4,361億円の保険金・年金・給付金をお支払いいたしました。今後も確実な保険金等のお支払いに努めてまいります。

### 価値観としての「お客さま基点」

「ご契約者本位」という想いのもと相互会社として創業された弊社では、経営や業務遂行にあたり、役職員一人ひとりが「もし自分がお客さまだったら」を常に想像しながら、フコク生命ならではのサービスや経験を創り出し、ご提供していく「お客さま基点」という価値観をあらゆる発想や行動の原点とするよう努めております。また、そのために人材開発に関する考え方の基本となる「人づくり基本方針」にもとづき、「お客さま基点」を実践し得る人材の育成に取り組んでおります。

2017年6月に策定・公表した『「お客さま基点」の業務運営方針』にもとづく取組みにつきまして

は、継続的な改善を図っており、年度ごとに取組結果を公表しております。引き続き、「お客さま基点」のさらなる浸透・実践に努めてまいります。

## 100周年プロジェクト

2018年11月に創業95周年を迎えた弊社は、100周年に向けたフコク生命像である「THE MUTUAL」（ザ・ミューチュアル）というコンセプトのもと、100周年プロジェクトに取り組んでおります。

「THE MUTUAL」とは次の100年に向け進化する次代の“相互扶助”のこと、またフコク生命に関わるすべての人と人のつながりを深め、支えあい、真の“相互扶助”を体現する組織を目指す決意でもあります。

100周年プロジェクトでは、さまざまな人たちや価値観との出会いを通して、次代の“相互扶助”を模索し発信してまいります。そして、共感の輪を大きく広げていくことで、100周年を迎えたとき、フコク生命に関わるすべての人と笑顔で共感しあえる会社となることを目指してまいります。

## 中期経営計画

「最大たらんよりは最優たれ」をDNAとする弊社では、「徹底した差別化でお客さまから最も評価される会社となる」をビジョンに前中期経営計画（2016年度～2018年度）に取り組んでまいりました。ビジョンの実現は道半ばではありますが、2016年度のスタート時からお客さま数の増加、外部調査会社による顧客満足度調査の業界内順位上昇といった一定の成果が表れております。

今年度から始まる新中期経営計画（2019年度～2021年度）においては、前中期経営計画からビジョンを引き継ぐとともに、ES（従業員満足度）の向上をCS（お客さま満足度）の向上に結び付けていく「持続的成長のための好循環」の構築並びに、10年後のありたい姿である「お客さま満足度No.1の生保会社となる」という長期経営ビジョンの実現に向けた取組みを主要テーマとしております。

## 健全性の向上および配当還元の充実

弊社では、いかなる環境下においても健全性を維持できるよう、自己資本の一層の強化に努めており



ます。自己資本の強化にあたっては、経常益を原資とした内部留保に加えて、適宜、基金の募集や劣後社債の発行などの外部調達を組み合わせることを基本方針としております。2018年度においては、危険準備金および価格変動準備金の積増し、追加責任準備金の積立て等の内部留保を行いました。

契約者配当につきましては、ご契約者の期待を踏まえてさらなる充実に向けて努めております。弊社は健康志向の高まりを先取りし、入院給付金のお支払いが無い医療保険のご契約者に対する配当（健康配当）を2005年度決算より導入しております。2018年度決算では本配当の増配を実施いたしました。これにより個人保険分野の増配は7年連続となります。

## 相互会社としての使命

1923年の創業より相互会社形態を貫く弊社では、配当還元の充実を通じてお客さまの実質的な保険料負担の軽減を図ることが相互会社としての使命であり、いかなる時にも保険金等を確実にお支払いすることが保険会社としての最も重要な責務であると考え、これを実践しております。

これからも変わらぬご支援・ご愛顧を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

代表取締役社長

米山好映